

審査の結果の要旨

氏名 前島 彩子

本論文は、「アフリカの都市化にともなうコンクリートブロック造住宅供給のあり方に関する研究—ザンビア・ルサカ市を事例として—」と題し、都市化がすすむアフリカの都市住宅に焦点をあて、ザンビアの首都ルサカ市における住宅供給のあり方について現地調査に基づいて実態を明らかにし、この中で、コンクリートブロック造が都市住宅建設に広く用いられている構法であることと、これを下支えする生産体制と深くむすびついている様子を把握している。さらに世界中で用いられているコンクリートブロック造を都市住宅の供給体制の地域比較の手がかりとしてとらえ、いくつかの地域での調査を通じて住宅構法としてのハードの側面と、生産体制や導入体制といったソフトの側面から、住宅構法に影響をあたえる要因について分析している。その上で、コンクリートブロック造の分析から得られた評価方法に基づいて、ルサカにおける住宅供給のあり方について考察したものである。

第1章では、本論文で取り組む研究の背景と目的について述べている。現在開発途上国で起きている都市化の現状の中で、住宅供給について考えることの重要性と、供給の一端を担うコンクリートブロック造の特徴について述べ、こうした地域の都市住宅供給を取り上げる意味と、コンクリートブロック造を切り口として調査する意義について説明したうえで、本論の構成及び用語の定義について述べている。

第2章では、統計資料や既往文献を参照し、研究の対象とした都市および構法の位置づけを整理している。対象としているザンビア・ルサカは今後の都市化がすすむ地域に共通する条件をそなえつつ、内陸であることや鉱山都市をもつことなどの特有の条件もあるということ、コンクリートブロック造は、セメントというグローバルな近代建材を用いている一方で、小規模な主体が参加できる生産体制であることから、多様な地域性をもつ構法であることを明らかにしている。これらから、研究対象の位置づけを行い、3章以降の分析の前提条

件を整えている。

第3章では、対象としたザンビアの首都ルサカの都市住宅供給の実態を、現地調査を中心に明らかにしている。まず住宅供給の時代的な変遷を把握し、代表的な供給が行われた住宅地における現在までの居住の実態、住宅の構法、これらの生産供給体制について、文献調査及び現地調査などによって明らかにした。また代表的な住宅の構法について、それらの製作・流通現場の現地調査により実態把握を行い、その中でコンクリートブロックと屋根材に関しては、その生産流通状況について、詳細な実態を把握した。これらの調査分析から、ルサカのコンクリートブロック造による住宅供給の実態を把握している。

第4章では、3章のルサカの調査から重要な構法として取り上げたコンクリートブロック造に着目して、住宅供給の地域的特性を分析するための枠組みの設定につながる指標の抽出を行っている。まずコンクリートブロック造が既に普及している先進国を対象に導入段階、普及段階、地域性への対応などのこれまでの変遷の調査を行い、技術として評価するための要素を抽出した。さらにルサカと比較するために、ある程度都市化がすすんでいるアジアの開発途上国の中からジャカルタとマニラをとりあげ、コンクリートブロック造の現地調査を行い、先進国の調査では把握できなかった生産供給体制、産業や在来構法といった追加の評価項目を抽出して、分析の枠組を設定している。

第5章では、4章で設定したコンクリートブロック造を評価する項目にしたがい、研究対象としているルサカおよび比較対象としているジャカルタ、マニラの状況を分析した。これを通じて、コンクリートブロック造による各地での住宅供給の特徴を明らかにしている。また、技術としてのグローバルな共通点とローカルに適応した点を明らかにすることで、コンクリートブロック造そのものの特徴についても明らかにしている。さらに、2章、3章でまとめたルサカの住宅供給の実態の分析を考慮して、ルサカの住宅供給のあり方に対して、材料・構法、生産供給体制、既存の住宅地状況、都市計画・土地利用について評価し、考察を行っている。

第6章は結論であり、本論文で得られた知見とこれを用いた研究の展開可能性について述べている。

以上のように本論文において、都市化のすすむザンビア・ルサカの実態を丁寧

中でも特徴的なコンクリートブロック造をとおして、都市化がすすむ地域での住宅供給のあり方を捉える評価の枠組を提示している。このような実態調査に基づく住宅供給のあり方の分析、およびその構法の評価の枠組の提示は、建築構法、建築生産の分野の発展に大いなる寄与をなしうるものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。